

東溪中学校だより

第 2 号
文責 校長

はじめに

「東溪中学校だより」では、学校の経営・運営の状況をお知らせしています。本校での「子どもの活躍」は、「東溪中学校のあゆみ」でご紹介していますので、そちらをご覧ください。幸甚でございます。（ただし、本校保護者、学校関係者等限定公開につき、パスワードで保護しています。）



1 学期の東溪中学校の「経営・運営状況」等

【本校の学校の教育目標に係る評価】について（自己評価）

【学校の教育目標】

主体性を発揮しよりよく生きようとする生徒の育成

中間達成度 B⁻ 評価/A～D

※学校の重点目標

- 学校の教育目標達成に向け、①「**言語能力**」の**向上**を基盤とし
達成度 B⁻ 評価/A～D
- ②**主体性**を**発揮できる**生徒の育成
達成度 B⁻ 評価/A～D
- 物理的、心理的に安全・安心な学習環境の担保及び ③**組織的授業改善**
達成度 B⁻ 評価/A～D
- ④**学び続ける教職員**としての意識の向上及び ⑤**小中連携を基盤**とした
達成度 B⁻ 評価/A～D
学校・家庭・地域の連携、協働の実働

【目標①】 習得語彙を活用し、主体性を発揮し自分の考えを言語化し伝え合う力の育成 について

R7 中間評価 成果 課題

【成果】()内は達成率
 ・自己調整力発揮し、家庭学習に取り組む生徒完全肯定率
53.5% (133.7%)
 ・単元テストの正答率8割以上生徒が30%以上
36.6% (122.0%)
 ・定期テスト「論理的に解答する」問題の平均正答率6割以上
52.2% (104.4%)
 ・主体性を発揮し自分の意見を伝える生徒の完全肯定率
57.1% (95.2%)
総合達成率 (113.8%)

後半期達成指標

- ・自己調整力を発揮し、家庭学習に取り組む生徒の完全肯定率55%以上
- ・単元テストの正答率8割以上の生徒40%以上
- ・定期テスト「論理的に解答する」問題平均正答率6割以上の生徒50%以上
- ・授業等で「主体性を発揮し自分の意見を伝えることができる」生徒の完全肯定率60%以上

【後期への課題】

△単元テストについては、全校で平均すると達成指標を越えたが、学年による差がある。(温度差)
 ⇒更なる徹底へ

△1学期の目標と達成状況をふまえて「東溪SDL」2学期バージョンを設定させるか？
 ⇒自立した学習者へ

(要 夏季休業中検討事項)

後半期重点取組

今年度の成果をさらに**発展、サステナブル**にする】

子どもの自己調整力を向上させる⇒「東溪SDL」
 ○「自律した学習者」の育成に向け、基礎的な枠組み、構成の向上に進展
 △授業改善は進んでいるが・・・大きなうねり・変化まではまだ到達していない。

○「単元構想」の徹底 ← **「互見授業」が有効**
研究主任のガバナンス↑
 ・「つきたい力」の明確化 ・質の向上

○ 学校全体に「支持的風土」「高い協働性」の更なる**活用**
 個に応じた学習の担保 ← 職員の意識改革が重要
 ・「指導の個別化」、「**学びの個性化**」の推進
 ・「キュビナ」の有機活用

参考値 (R7, 3月末)

- 授業等で「自ら意見を言おうとする生徒」完全肯定率**57.1%**
 (前年度 2学期28%)から飛躍的向上。
- 「単元テストに向けて自分で計画を立て、調整しながら家庭学習に取り組んでいる」生徒の完全肯定率**54.8%**

-2-



【目標②】 多様な意見や考えを受け止め、建設的に発信し合意形成を図ろうとする力の育成について

R7 中間評価 成果 課題

【成果】()内は達成率
 参考値: ※は肯定率
 ・授業の主体的取組・充実
57.1% (114.2%) ※**87.5%**
 ・キャリア形成、学校生活の充実
42.9% (85.8%) ※**92.9%**
 ・よりよく学校生活を送る生徒
71.4% (142.8%) ※**75.0%**
 ・友だちや集団のために役に立っている生徒 **42.9% (85.8%)** ※**100%**
総合達成率 (89.3%) ※**88.9%**

達成指標 (後半期継続)

- 以下について生徒の**完全肯定率50%以上**
- ・授業に主体的に取り組む充実できている生徒
 - ・キャリア形成を意識し学校生活を送る生徒
 - ・互いの意見を受け入れ、よりよく学校生活を送る意識を持つ生徒
 - ・友だちや集団のために役に立っている生徒

【課題】

◇生徒会の提案の場の確保 (自己存在感の担保)

◇合意形成を行う方法の精度向上⇒職員研修必要

◇キャリア教育・進路学習の充実

◇更なるCS活用

後半期重点取組

◇授業改善の推進に**保護者、地域を巻き込む**ことも必要

◇キャリアプランニングや集団への寄与の自覚と自己有用感等の向上を図る取組の継続

◇生徒はふり返しを行うことで、**行事への取組の再確認、次回の目標設定に有効である**ことから継続推進する

◇合意形成の具体的な方法について(案)
 ⇒中央委員会(執行部+学級正副委員長)で目的を提示
 ・各学級で朝自習時などを利用、目的の発表
 ・協議事項を全体の場で発表・共有
 ・全校生徒へ周知⇒行事の実施 振り返り のサイクル
 + CSと共有、熟議へ

参考値 (R7, 3月末)

- 「授業で活躍できたり、充実したりしていると思うか」肯定率 **87.5%**
- 「自分の将来の夢や目標に向けて学校生活を送っているか」肯定率 **84.4%**
- 「友だちや集団のために役に立ちたいと思うか」肯定率 **93.8%**

【成果】

- 「自律した学習者」の育成に向け、基礎的な枠組み、構成の向上に進展あり
- 組織的授業改善(互見授業等)が教師の専門性を向上し、生徒の主体性のある学びにリンクする傾向あり
- 組織マネジメント(各チームの取組状況、役割・分担の明確化)が深化した (チーム会議/月 完全実施)

【課題】

△「論理的に解答する」項目設定の更なる精度向上を図る

△ 更に家庭、地域との協働に注力することが肝要 ⇒小中合同 CS の更に連携強化する